（様式⑦-1　小学校・中学校）

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ　学校力向上プラン【学校評価書】

中学校区におけるめざす子ども像
多様性を認め合い自立的・主体的に行動できる子

堺市立登美丘西小学校
校長　　山本　清和

R7年度　重点目標
さらに，美しい学校にしよう　～5つの「き」ができる子を育む～
〇聴く　人の話を最後まで聴く子　〇本気　何事も本気で行う子　〇優気　友だちや仲間に対して優しい気持ちで接する子　〇雰囲気　誰から見ても雰囲気をつくる（感じる）子　〇正直　正直な心をもち正直に話す子

確かな学びの現状
・昨年度，算数科に関するアンケートを4～6年生を対象に実施した。『①算数は好きですか』という項目では，肯定評価が60%であり，期待している80%を大きく下回る結果が見られた。しかし，『問題の意味が分からない』『計算が苦手』『楽しいと感じたことがない』など，児童の素直な意見を聞くことができ，困り感や課題が見つかった。学びを自らにとって必要感のあるものとして捉え，主体的に学んでいく児童を育んでいきたい。
・ICT機器を活用することにより，児童・教員共に表現の多様性が生まれ，授業における幅が広がっている。しかし，ICTを活用することが主な目的となってしまう場面も少なからず見られるので，学びを深めるための一助となる位置づけを大切にしたい。
・「5つの学習規律」を児童と共に意識することで，各学級の学ぶ雰囲気が少しずつ良くなっているので継続して取り組んでいきたい。

豊かな心・健やかな体の現状
・昨年度の学校教育アンケートにおいて「自分のよいところについて考えようとしている」の項目での肯定評価が76%と，8割を下回っており，自己肯定感の低い傾向がみられる。
・昨年度の学校教育アンケートにおいて「自分は学校へ行くのが楽しい」の項目では，86%の児童が肯定的な回答をしている。さまざまな行事が復活して学校で楽しく過ごす時間が増えたことも関係していると考えるので，さらに行事等の工夫をしていきたい。
・ほとんどの児童が挨拶を返すことができる。また，相手の名前を呼んでから挨拶をしたり，挨拶の後に一言つけ足したりできる児童も増えてきている。自分から進んであいさつができる児童も増えているので，あいさつ運動などの取り組みもしていきたい。
・児童の体力はわずかに上昇傾向にある。体育の授業やその他の時間でもさらに体力の向上がはかれるようすすめていきたい。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組（●重点とする取組　★中学校区での取組）	判断基準（評価のものさし）	評価方法（すべて学年会含む）	評価時期	進捗確認（～10月）		達成状況(年度末) 自己評価		達成状況(年度末) 学校関係者評価	
確かな学び	教科学力向上	・つけたい力を明確にした授業改善 ・学ぶ喜びのある授業をつくるための指導の徹底 ・ワークショップ型を取り入れた校内研修の組織的・継続的な実施	★導入場面に力を入れ，問題を自己の課題として認識し，自立解決へ挑む。	全学級が実施できている。	状態について協議 学校教育のアンケート	学期毎	〇	概ね全学級で取り組むことができている。特に児童主体の学びへとつながる導入の工夫に力を入れている。考えを膨らませる手段を校内研究を通して学び，少しずつ児童へと還元することができている。また，交流場面では意見の伝え方や，聴き方の指導を丁寧に行っているが，全体発表の場面において，児童の発表者が固定化する傾向がみられることが課題である。	◎	「導入に熱量を」というテーマの下，児童が問いを持ち、見通しを持って学習に取り組む姿勢が育った。課題解決への関心が高まり，系統性を意識した指導が成果を上げている。しかし，算数への肯定評価は6割程度で前年度からの変容が少なく，単元後半の失速や習熟時間の不足，発表者の固定化が大きな課題である。今後は「学びのコンパスの推進」に重点を置き，算数科を通して学び方を学び，思考を深める・広げる授業づくりを組織的に推進していく。また，児童が持つ多様な考えを認め合う交流の場を充実させ，分かる喜びや考える楽しさを実感させるなど，不断の授業改善に取り組んでいく。	◎	「導入に熱量を」というテーマで研修を進めたのが良かった。ただ，学習場面で困っている児童がどうしたら課題解決できるのかを考える手立てが必要である。来年度は，そこを意識しながら研修を進めてもらいたい。
			★交流場面で，前に出て，発表するようにしている	全教員が実施できている。堺市学力等実施調査において，「話し合いの場面が多い」「考えを書く場面が多い」の項目で肯定評価80%以上	状態について協議 学校教育のアンケート	学期毎	〇		〇		〇	授業参観等を見ていて，児童が自分の意見を言う場面をよく見られるようになった。また，児童自身が学習のまとめをしている場面も見受けられた。来年度は，「学びのコンパス」を意識した授業づくりを行うということで，意識して見ていきたい。
			●校内授業研究と学校内公開授業等を通して，教員が学び続け，共に高め合いながら授業改善を図る。	全教員が実施できている	状態について協議	学期毎	〇		〇		〇	学校全体が研修を重ねていることが先生方の話を聞いていて伝わる。来年度も引き続き，この調子で研修を続けてもらいたい。
	学びの基礎力向上	・進んで考えを膨らませる児童の育成 ・5つの学習規律の徹底 ・自律的な学びを育成する家庭学習習慣の定着	●相手の意見を『聴く』ことで自分の考えを膨らませ，ICT機器の活用などから自分の考えを表現する機会を積極的に設ける。	全教員が実施できている	状態について協議	学期毎	〇	・概ね全学級で取り組むことができている。 ・学習規律が学級規律につながっている。 ・毎日1時間以上タブレットの活用が進んでいる。 ・家庭学習については，概ね全学級で取り組むことができている。	〇	ICTの日常活用や5つの学習規律は概ね定着した。しかし，粘り強さの不足や指示待ちの姿勢，基礎学力の定着が課題として考えられる。自分の考えを言語化する力や自信が不十分な児童も多く，主体的な学びの基盤づくりが急務である。今後は児童の「主体性・能動性」を引き出す指導を中核に据えていく。そして，全校体制で家庭学習の習慣化と基礎学力の徹底を図るとともに，自らの学びを調整し，自信を持って粘り強く課題に立ち向かう「登西っ子」の育成を一層強化していく。	〇	ICTの活用に慣れている児童が多い。発表等でもよく活用している場面が見られた。
			・5つの学習規律の徹底	各項目で肯定評価80%以上	学校教育アンケート	年度末	△		△		〇	「5つのき」は，子どもたちの中で浸透しているように思う。また，主体性を伸ばす指導というのはこれからの時代に必要である。
			・家庭学習の習慣化 ●各学年で定められた家庭学習の時間を目安に，計画的かつ積極的に取り組む。	80%以上の児童が主体的に取り組むことができている	状態について協議	学期毎	〇		〇		〇	家庭学習は習慣化されている。ただ，学習についていくことができない子が一定数いると思うので，その子たちへの支援が必要だと考えられる。
豊かな心・健やかな体	心の育成	・一人ひとりの子どもが安心して活動できる居場所づくりとともに自尊感情を高め，お互いを認め合う仲間づくりに取り組み，しなやかな心を育てる	・美しい学校にするための5つの「き」(聴く，本気，優気，雰囲気・正直)を大切にした学習集団を育て，自己肯定感や自尊感情を醸成させる。	・「学校が楽しい」の項目で肯定評価90%以上 ・「自分にはよいところがある」の項目で肯定評価80%以上	学校教育アンケート	年度末	〇	・全校朝礼や学年行事など，様々な機会における指導において5つの「き」に触れている。また，掲示物なども含めて，日頃から5つの「き」を児童が意識できるようにしている。 ・今年度から児童会で学校にいま足りていないことを話し合い，適した月目標を考え，全校児童に発信している。	◎	・学校教育アンケートでは，「学校へ行くのが楽しい」の項目で肯定的な評価が84%であり，昨年度より4ポイント向上したが，目標達成はできなかった。 ・全体朝礼や月の生活目標，行事の目標などあらゆる場面で5つの「き」の話をすることで学校全体が同じ目標をもって，教育活動に取り組むことができた。	〇	「5つのき」は児童だけでなく，私たちにとっても分かりやすい取り組みである。どれも子どもにとって必要なことであるので，家庭でも大切にしていきたい。
			元気な声で，先に，あいさつをする	・「あいさつをしていますか」の項目で肯定評価80%以上	学校教育アンケート	年度末	△		〇		◎	「あいさつ」は登西の子はよくしている。自分から，あいさつをする子は少ないみたいだが，あいさつを返している子は多い。「はきもの」についてもそろえようという意識がある。学校だけでなく，家庭でもはきものをそろえているという声をきくので，学校の取り組みが家庭に生かされているのが分かる。
			はきものをそろえる	・「トイレ，下靴など，そろえている」の項目で肯定評価90%以上	学校教育アンケート	年度末	〇		〇		〇	
			黙々清掃をする	・だまってそうじをすることができる。	学校アンケート	年度末	△		△		△	掃除に集中して取り組むことは大事だが，黙って清掃することが必要かは児童の実態を見て見極める必要がある。
	体力の向上	運動する楽しさや喜びを5つの気（聴く・本気・優気・雰囲気・正直）で感じられる環境を整えるとともに，ICTを活用して体育に取り組む児童を育てる。	・堺市学校体育指導の手引きの活用 ・児童がタブレット等を使ったり，スモールステップの場を使ったりしているか	体育カードや発表ノートを作成して，児童がまとめているかどうか。	学校教育アンケート	学期毎	〇	体育カードを使用することで，児童が自分の意見や考えをまとめることができている。 縄跳び大会は，12月・2月に開催（1学期も各学年，計測はして掲示している）	〇	体育カードを使用することで，児童の意見を吸い上げ，授業づくりに活用することができた。大縄大会では，休み時間に積極的に外に出て，練習を重ねていた。また，クラスの記録を更新することで団結力が育まれていた。	〇	体育カードや発表ノートを活用することで，体育が苦手な子でもコツが分かり，役立っている。また，大縄大会では，目標に向かってクラスが練習を重ねることができた。大縄大会に限らず，どんなことでも目標に向かって努力することはよいことなので，続けてもらいたい。
			●長縄もしくは短縄での学校活動の実施 ・体育委員会が中心となり，体力向上運動の啓発	縄跳び運動の実施 体育委員会による啓発活動	実践報告	年度末	〇		◎		〇	
（地域協働）	信頼される学校	・学校や児童の様子を積極的に発信し，開かれた学校をめざす。 ・保護者，地域と連携して児童の健やかな成長を保証する。	★学校ホームページや校報等で情報を発信し，教育活動の周知をはかる。	平日300休日100以上のホームページ閲覧数を継続的に達成する。	状態について協議	年度末	〇	・学校ホームページのにおいて毎日記事の更新を継続している。 ・地域の方を講師とした地域学習（出前授業）を実施した。 ・中学校区全体で夏季研修を行い，現状や今後の取り組みについて情報交換および意見交流を行い，学校群として教職員の連携を図っている。	〇	今年度の学校ホームページ閲覧数は11か月で約60，000，月平均約5，500と，目標を達成することができた。 今年度は体育館工事の関係で地域の方や保護者に参画いただける場面が限られてしまったが，次年度においては学校群の強みを活かし，地域人材の活用を広げていきたい。	◎	学校ホームページの記事の更新が多いので，学校の様子がよく分かる。また，記事を見ながら家庭でも話をするのでありがたい。地域の人材については，何度か学校で話をした。学校群の取り組みがあると聞いたので，他校とも連携をとってもらえたらと思う。ただ，中学校だけでなく，幼稚園とも連携を密にとってもらえたら，1年生の接続がうまくいくと思う。学校群としての取り組みは，これからということを聞いたので，来年度も頑張ってほしい。
			★保護者や地域の人材を活用し，地域とともに歩む学校づくりを推進する。	学習活動や行事において，地域人材や保護者の参画を増やす。	状態について協議	学期毎	〇		〇		〇	
			★中学校区で「夏季研修会」「授業公開」を実施する。グランドデザインの作成と学校群の組織を編成し，具体的な取り組みについて検討する。	本年度中にグランドデザインと学校群の組織編成が完了する。	状態について協議	年度末	△		△		〇	

校長より(年度末)
今年度を振り返ると，昨年度よりも良かった点と課題の残った点と2極化したように感じる。まず，よかった点は，校内研修で，「導入に熱量を」ということで全学年取り組め，成果もあったことはよかったと思う。しかし，来年度は，学びのコンパスで，こどもたち自身が学びを進めていくことにチャレンジしようとなった。また，黙々清掃は，だまってやるよりも，必要なことは話す。ただし，声の大きさに気をつけるということも職員全員で共通理解を図った。挨拶は，だんだん声が小さくなっているように感じたが，評議員（地域の方々）のみなさんからは，高い評価を得ることができたことはとてもよかった。これからも継続していきたい。

学校関係者評価者から(年度末)
学校は「5つのき」や校内研修など，児童を中心に据えた取り組みを頑張ってくれている。また，「あいさつ」や「はきもの」などの生活習慣を大切にする取り組みが家庭にも広がっていることは，地域に住むものとしてうれしい限りである。ただ，「もくもく清掃」や「学校群」などの取り組みは，まだまだ改善する余地があるように思う。今年度の取り組みを生かして，来年度もっと学校の取り組みが深まっていくことを期待している。